

会 議 録

会 議 名	第1回 八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 高齢者計画・介護保険事業計画策定部会
日 時	令和5年(2023年)2月15日 14時00分~16時00分
場 所	学園都市センター 第1セミナー室
出 席 者 氏 名	委 員 杉原 陽子委員、村上 正人委員、鈴木 長一委員、田中 泰慶委員(4名)
	臨 時 委 員 村山 洋史委員、島崎 誠委員、大島 和彦委員、野島 啓子委員、新井 隆男委員、 竹内 将人委員、大竹 毅委員、井上 顕委員、八木 広行委員、香川 正幸委員、 土井 俊彦委員、牧野 友香委員 (12名)
	事 務 局 福祉部 松岡 秀幸部長 高齢者いきいき課 吉本 知宏課長、辻 誠一郎主査、池田 光主任 大内 夏奈主事、井海 みのり主事 福祉政策課 柏田 恆希課長、伊藤 綾子主査 高齢者福祉課 富山 佳子課長、田代 雅人課長補佐兼主査 介護保険課 中山 あずき課長、長谷部 晃一課長補佐兼主査
欠 席 者	大井 みゆき委員
次 第	1 開会 2 福祉部長挨拶 3 委嘱状交付 4 委員・事務局紹介 5 会長・副会長の互選 6 報告 (1) 高齢者施策のこれまでとこれから (2) 第9期計画の方向性について 7 事務連絡 8 閉会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	0人
配 布 資 料	・次第 ・資料1 高齢者施策のこれまでとこれから~第8期計画(2021年度~2023年度)のおさらい~ ・資料2 第9期計画の方向性について ・参考資料1 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会運営要綱 ・参考資料2 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会委員名簿 ・参考資料3 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会 年間スケジュール ・意見書

会議の要旨

辻主査

1 開会

定刻となりましたので、ただいまより八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 第1回八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会を開会いたします。開会に当たりまして、福祉部長よりご挨拶申し上げます。

2 福祉部長挨拶

松岡部長

福祉部長の松岡と申します。よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 第1回八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、この度は、計画策定部会の委員をお引き受けくださいましたこと、厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、現行の高齢者計画・介護保険事業計画の計画期間は、令和2年度からであります。令和6年度からの新たな計画策定に当たりまして、皆様のお力をいただきたいということでお集まりいただきました。ご承知のとおり、少子高齢化が進む中で、本市においても昨年11月末の時点で高齢化率27.57%、要介護率も19.41%となっており、高齢化率の推計については、2040年には32.4%に達すると見込んでいるところでございます。

そのような中、市といたしましても、高齢者の皆様が地域で安心して望む生活を送ることができる環境、こういったものを整えていかなければならないと考えております。

そのためには、市だけでどうにかできるといったことではございませんので、やはり地域の住民をはじめ、町会・自治会、福祉事業者、医療関係者、民間企業など、地域にある様々な主体がお互いに連携をしながら取り組んでいかなければならないと思っておりますし、そういった連携をさらに推進し、お互いが支え合える地域づくりをしっかりと進めていかなければならないと考えております。これから皆様と共に策定する次期計画でも、地域での支え合いを土台とした中で、介護予防・重度化防止、また介護保険制度持続可能性の確保など、様々な課題への対応を整えるほか、実効性のあるものにして、市民の皆様と共に、ご協力いただける計画にしたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、策定に向けて専門的な知見、あるいは、地域で生活する市民としての市民感覚、そういったところからご意見、ご検討いただきたいと思っておりますので、是非ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日がスタートとなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 委嘱状交付

辻主査

続いて委嘱状の交付に移ります。今回、交付するものは、市長からの辞令書、社会福祉審議会会長からの社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 臨時委員の指名書及び高齢者福祉専門分科会会長からの高齢者計画・介護保険事業計画策定部会 臨時委員の指名

	<p>書となっております。</p> <p>指名書につきましては、既に机上配布してありますので、ご確認ください。</p> <p>本日は、市長が出席できないため、福祉部長より辞令書を交付いたします。なお、既に社会福祉審議会委員として発令されている方には辞令書の交付はございません。</p> <p>それでは、福祉部長がお渡ししますので、村山委員から順次、委員の皆様はその場でご起立ください。受け取られましたらご着席ください。それでは、村山委員から辞令書をお渡しします。</p> <p>《辞令書、指名書の交付》</p> <p>4 委員・事務局紹介</p> <p>本日は初回ですので、お手数ですが杉原委員から順にお一人ずつ 30 秒を目安に自己紹介をお願いいたします。</p> <p>委員名簿については、参考資料 2 にありますので、そちらも併せてご覧ください。</p> <p>なお、本日は大井委員から欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>それでは、杉原委員、お願いいたします。</p> <p>《委員一人ずつ自己紹介》</p>
<p>辻主査</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、事務局の自己紹介をさせていただきます。</p> <p>高齢者いきいき課長から順をお願いいたします。(名簿順)</p> <p>《事務局自己紹介》</p>
<p>辻主査</p>	<p>また、今回自己紹介した職員以外にも、案件に応じてほかの職員に説明員として出席を求めることがありますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>続きまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>《資料の確認》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料 1 高齢者施策のこれまでとこれから～第 8 期計画（2021 年度～2023 年度）のおさらい～ ・資料 2 第 9 期計画の方向性について ・参考資料 1 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会運営要綱 ・参考資料 2 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会委員名簿 ・参考資料 3 八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会 年間スケジュール ・意見書

	<p>以上です。</p> <p>不足の資料はございませんでしょうか。</p>
辻主査	<p>5 会長・副会長の互選</p> <p>続いて、八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会運営要綱第3条に基づき、委員の皆様の中から会長を互選していただきます。ご発議はございませんか。</p>
田中委員	<p>はい。</p>
辻主査	<p>はい、田中委員、お願いいたします。</p>
田中委員	<p>杉原委員にお願いしたいと思います。杉原委員は、高齢者問題に長らく携わっているため造詣が深く、また、第8期計画策定部会でも会長をされているので、是非今回も杉原委員にお願いしたいと思います。</p>
辻主査	<p>田中 泰慶委員から杉原委員の推薦がございましたが、皆様よろしいでしょうか。杉原委員、ご承諾いただけますか。</p>
杉原委員	<p>はい、よろしくお願いいたします。</p>
辻主査	<p>それでは、杉原委員を会長に選出いたします。杉原委員、誠にお手数ですが、会長席にご移動願います。</p> <p>では、就任挨拶をお願いいたします。</p>
杉原会長	<p>改めまして、皆様よろしくお願いいたします。</p> <p>会長を務めさせていただきます、杉原と申します。</p> <p>第9期計画は、2025年問題が入ってくる非常に重要な計画に当たります。また、コロナにより、介護事業所もかなり大きな痛手を受けたと思います。早期に回復していかなければならない非常に重要な時期ですので、皆様のお力添えのほど、よろしくお願いいたします。微力ではございますが、頑張っていきたいと思います。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、副会長の互選をお願いいたします。ご発議はございませんか。</p>
杉原会長	<p>はい。</p>
辻主査	<p>はい、杉原会長、お願いいたします。</p>

杉原会長	<p>東京都健康長寿医療センター研究所の村山 洋史先生を推薦いたします。</p> <p>村山先生は、第8期計画策定部会でも副会長を務めていただき、介護予防や地域包括ケアなど、八王子市が重視している政策について、非常に造詣が深い先生ですので、村山委員に副会長をお願いしたいと思います。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。会長から村山委員の推薦がございましたが、皆様よろしいでしょうか。</p> <p>村山委員、ご承諾いただけますでしょうか。</p>
村山委員	<p>はい。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、村山委員、副会長席にご移動願います。</p> <p>では、就任挨拶をお願いいたします。</p>
村山副会長	<p>改めまして、村山でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>コロナで市民活動、あるいは、様々な活動が落ち込んだことと思いますが、その落ち込んだ状態から改善することは、非常に難しいことだと思います。</p> <p>今回の計画は、こういった新たな課題を踏まえて新たな市民活動の姿を描く計画になればと考えております。</p> <p>微力ではございますが、杉原会長を支えながら皆様と議論ができればと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に会議の公開・非公開についてですが、八王子市社会福祉審議会条例施行規則第4条及び八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針第12に基づき、原則公開いたします。公開することが適当でないとき認めるときは非公開の決定を行うこととなっております。</p> <p>会議録については要綱第10条に基づき事務局で調製いたします。調製後、会長のご承認をいただきます。</p> <p>それではここからは、八王子市社会福祉審議会条例第4条第3項及び第6条第6項の規定に基づき、議事の進行を会長に委ねます。</p> <p>杉原会長よろしく願いいたします。</p>
杉原会長	<p>6 報告</p> <p>欠席委員は1名ですので、開催要件は満たしております。本部会は原則公開となっております。なお、本日の傍聴者はいらっしゃいません。</p> <p>それでは次第に沿って、議事を進めてまいりたいと思います。</p>

辻主査

まず、報告1、「高齢者施策のこれまでとこれから」についてです。事務局から説明をお願いします。

(1) 高齢者施策のこれまでとこれから

それでは、事務局の辻から資料1に基づき、これまでのおさらいということでお話をさせていただきます。

まず、「はじめに」ということで、高齢化、高齢化と言われていますが、今どのような状態なのかというところからお話をいたします。

そもそも高齢者とは、WHOにより65歳以上の方と定義されています。日本では65～74歳が前期、75歳以降が後期高齢者と言われていて、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会と、7%刻みで、高齢者の割合によって、異なる呼び方をしています。実際には、日本は28%を超えているので、何かもう一つ新しい呼び方がついていても良いところまで来ています。

なぜ高齢化しているのかというと、平均寿命が延びているからです。人生100年時代、これはとても良い言葉なのですが、その結果、当然高齢者の割合は増えていくことになります。

これから、ますます高齢者の数、割合が増えていく、その一方で若い人の数がさらに減っていくことが予測されています。

では、八王子はどうなるのか。ここも全国と大きく変わる傾向ではなくて、高齢者、特に後期高齢者の割合が2020年から2040年にかけて急増していくと予想されています。

高齢化すると何がどう変わるのかということについて、20～64歳が現役世代、65歳以上が支えられる側として絵を描くと、このように2000年と2040年で支える人と支えられる人の人口比率が変わっていきます。現役世代だけが働いているという前提の場合、社会保障に関する費用について、一人ひとりの負担がかなり増えていくこととなります。

そして人材面では、介護人材の不足が極めて深刻で、こちらはもうすぐに、もしくは既に影響が出ています。

財政面についてもう少し詳しくお話しすると、社会保障の給付費が年々増大していることを表すものが、9ページのグラフです。オレンジの部分は高齢者関係のお金です。

わかりやすく家計で例えると、稼いだお金の2割がおじいちゃんの病院代に使われている、そのような様子をイメージしていただくと分かりやすいと思います。

八王子の場合、一人暮らしの後期高齢者、つまり75歳以上で一人暮らしをしている方は、2040年にかけて急増していく見込みです。認知症の高齢者の数も倍近くに増えていくと予想されています。そのため、地域での見守りや、より専門的なサポートなどを必要とする方はこれからますます増えていくことが確実となっています。

そして今、介護サービスが必要な人について、要支援1・2、要介護の1・2・3・4・5というように段階によって認定が行われておりますが、この認定を受けている方

の割合・数もこれから増えていくことが予想されています。今までの傾向をベースに、2040年を推定すると、大体3万人弱のところは4万人程度になると推定されています。

そうすると、八王子での介護給付費、介護サービス、例えばヘルパー、デイサービス、特別養護老人ホーム等への必要なお金も増えていきます。かなり大まかな推計ですが、単純に計算すると大体2040年までに1.5倍近くまで増えていく可能性があるという計算されています。

介護保険サービスを受けたときのお金は、65歳以上の第1号被保険者の保険料、40～64歳の第2号被保険者の保険料、そして国・東京都・八王子市の税金で賄っています。自己負担割合も1割から最大で3割になっていますが、全体のお金のうち八王子市の財政から支出している分が約12.5%です。そのため、先ほど申し上げた1.47倍にサービスの需要が増えていくとなると、約15～20年の間に八王子市の税金から支出する分のお金は20億円程度増えるという計算です。この20億円の差額は、単純に計算すると、職員が1割減らないと賄えないほどの数字です。他には20億円分の事業を止めるとなると、かなり大規模な事業、例えば中心市街地の活性化プロジェクトを全部止めるなど、そういったレベルで事業を縮小していくことが必要になってきます。また、その頃には、八王子市の生産年齢人口が、今の4分の3程度になっていると推計されます。

この中で介護保険サービスを受けている人を支えていく必要があり、道路など、様々な市民サービスも続けていかなければならないという、なかなか八王子市役所も厳しい状況に置かれているということが分かると思います。

さらに皆様にとって身近な問題が、介護人材の不足です。よく国でも言われていることですが、介護を必要とする人に対して、支える人の数がこれからはますます足りなくなります。

例えば八王子市の介護の従事者についてです。2020年時点の介護人材の数、すなわち供給数は5,986人となっていますが、この時点での介護人材の需要数も同数だと仮定しましょう。そのうえで、2020年時点の介護を必要とする人数と、1年間で新しく介護の仕事に就いた人数等をベースに将来を推計すると、2040年までに1,694人足りなくなるという結果が出ています。じゃあ介護の仕事に就く人を今より1,694人増やすことができるのかというと、そのような簡単な話ではないことが現状です。

さらに、現実を言うと、今介護の仕事に就いている方の中で50代以上の方が、かなり多くいます。2040年まで働き続けられるかどうかという方が多くいる状況で、今既に介護人材不足と言われています。このままでは、2040年、またはさらに早い段階で本当に介護を必要とする人が、サービスを受けられないということが起きてしまうかもしれません。こういったことが非常に強い危機感となっています。

続いて、そのような中で八王子市が高齢者計画・第8期介護保険事業計画（令和3～5年度）の中で実施していることを簡単に説明いたします。

目指すまちの姿として、基本理念である「いつまでも『望む生活』を送ることができる生涯現役のまち八王子」が掲げられています。この「現役」は、ずっと働くというこ

とではなく、やりたいこと・したい暮らしというものをずっと追求できるような、そのようなまちにしたいという思いで、前回の高齢者計画・介護保険事業計画策定部会で決まりました。これを支える前提として、高齢者が安心して地域で暮らしていけるように「地域ネットワークの充実」をさせることが重要です。そして、いつまでも元気で暮らし続けていくための「自立支援・重度化防止」、超高齢化社会における身近な「認知症との共生と予防」、サービスを必要な方が住み慣れた場所で暮らし続けていけるようにする「在宅生活の支援」、これらの支援により、目指すまちを支えています。また、この制度がうまく運営されるための「制度の持続可能性」、この五つを柱とすることで、基本理念を支えるものと位置付けています。

簡単に一つひとつの柱の中身を説明します。まず「地域ネットワークの充実」についてです。地域包括支援センター、通称「高齢者あんしん相談センター」からも、寄せられる相談の数だけではなく、難しさが増えていると聞いています。例えば、よく聞く8050問題などですね。高齢者一人の対応をすれば良いのではなく、その方の家族そのものから支えていかなければならないといった問題が増えてきています。

そういった中で、可能な限り身近な場所で、かつ気軽に相談ができるような体制を整える必要があります。さらに、個別ケース対応で感じた課題認識を、八王子市の政策形成に活かす流れを作っていくことも重要です。そこで、個別の課題について、福祉だけではなく、医療、地域の活動等様々なことに詳しい方が集まって話す地域ケア会議、そして、地域ケア会議の内容から市が政策的に対応すべきものを拾い出す地域ケア推進会議、そういったものを整備しているところです。

ほかにも高齢者が気軽に遊べる場所であったり、人を手助けしてくれるような方だったり、あとは企業などの地域資源について把握をして、困っている人につなげてあげる役割を担う生活支援コーディネーターの配置や、医療と介護の連携など、みんなで高齢者を支える体制づくりを進めています。

そして「自立支援・重度化防止」についてです。八王子市では、「自立支援・重度化防止」を、現行の第8期計画でかなり強化して、内容や事業も充実させています。「自立支援・重度化防止」では、キーワードが三つあります。一つ目は「リエイブルメント」です。分かりやすく言うと、何もしないと状態がますます悪くなっていく方に対して、できなくなったから全部代わりにしてあげると言う、やはり体力的・知力的な意味では状態は良くなりません。このままの状態を維持するのではなく、可能な限り早い段階で適切なサポートをすることで、元の暮らしを取り戻すことがリエイブルメントです。大切なことは、早く見つけることと適切な支援をすることです。早く見つけるための取組としては、窓口での体制の強化や、後期高齢者で今介護のサービス使っていない75歳以上の元気高齢者全員を対象にしたアンケートを実施して、介護保険サービスが必要であればそちらにつなげるといった取組を進めています。

そして二つ目のキーワードが「セルフマネジメント」です。今まで介護予防というと「市役所が体操教室をやります」とか、「市役所がチラシをまきます」など、「市役所が〇〇します」というものが主でした。しかし、八王子市には現在高齢者が15万人いま

す。

私がいくら頑張っても、10人、100人を健康にすることで精いっぱいになってしまいます。そうすると残りの149,900人に何もできず、それで良いのかという問題になってきます。15万人いる高齢者のみんなが、健康に興味を持っているわけではないので、そういった方々でも自分の健康を自分で守る習慣をつけることを支援するというのがセルフマネジメントの考え方です。資料に書いてあるとおり、介護予防の主役は高齢者一人ひとりです。このコロナ禍で様々な事業ができなくなった中、市役所が改めて気づいたのがセルフマネジメントの重要性です。セルフマネジメントの一つの事業として、昨年からはまったスマートフォンを使った「てくポ」という事業があります。

三つ目のキーワードが「プロダクティブエイジング」です。簡単に言うと役割をもった活動全般のことです。誰かの役に立つということで、楽しく充実して日々を送れるような、そのような機会をつくることを指しています。

そして三つ目の柱が「認知症との共生と予防」です。こちらは国の大綱にもあるとおり、「共生」と「予防」の二つがキーワードになっています。「予防」は、認知症になりにくいようにすることです。ただ、絶対にならない方法があるわけではありません。どうしたらならないかということは、まだ分かっていないことが多いです。その中でも可能な限りなりにくいような習慣をつけてもらうことが重要です。そして、もう一つ大切なことは、早く見つけることです。「共生」については、認知症になった後も人生は続きますし、その人はその人です。地域の中で尊厳をもって暮らせるような社会をどうやってつくっていくか、こういったことを大事にしています。八王子市では、認知症の方や家族の方が悩みを話し合ったり、触れ合ったりする場を整備するほか、認知症の方自身の発信する場や、普及啓発の場についても進めております。

四つ目の柱は「在宅生活の支援」です。介護予防など様々なことをやっても、できなくなるが出てくることは当たり前です。しかし、その中でも住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、移動のサポートや、住民・企業等様々な主体が高齢者を見守ることを含めた様々な支援を行っていくことが大切です。他には、介護保険サービスの中でも地域密着型のサービス、つまり住み慣れた場所で暮らし続けるために、使いやすいサービスを整備していこうと考えています。

最後、五つ目の柱は「持続可能性の確保」です。この持続可能性確保は非常に難しく、様々な人の負担によって運営されている制度ですので、今の高齢者をしっかり支えることも当然大切ですが、高齢者計画・介護保険事業計画はこれで終わりではありません。大きな負担をしている現役世代や、さらに未来の世代が、将来必要なサービスが受けられると安心できることも大切だと考えています。お金は取られるけど、このままでは自分が将来要介護になっても誰も助けに来てくれないのではないかと、そのようにみんなが思う社会は、きっと良い社会ではないと思います。そのため、将来に向けた安心、そして世代間の公平性、こういったことも現役世代の方にとっては重要なところになると考えています。

特に、今回は市民委員の方を第8期計画策定時より一人増やしております。今までは

	<p>第1号被保険者と第2号被保険者に、今の高齢者と現役世代の代表ということで出たいたのですが、若者、将来世代という立場からご意見をいただきたいという思いで、39歳以下の枠を新たにご用意させていただきました。</p> <p>目指したいのは、みんなが安心して年を重ねられるような、そんな八王子だと思っています。</p> <p>理念だけではなく、現実的にどうするかということが非常に難しいところです。本当に必要とする人にサービスを確実に届けるために様々な取組を実施していますが、資料31ページの下にあるこの計算式について、介護に携わる人や事業所など、需要を物理的に増やしなが、その人たちがより働きやすいように効率上がるサポートをしていくことによって本当に必要なサービス量を満たしていく、こういう形で需要と供給の両側にアプローチしていく必要があると思います、色々検討しているところです。</p> <p>簡単ですが、第8期計画の概要を説明させていただきました。計画の中で具体的にどのような事業を載せているのか、それぞれの事業が今どのような状況なのか、そういったことはまた必要に応じて共有させていただければと思います。</p> <p>この資料1については以上です。ありがとうございました。</p>
杉原会長	<p>はい、ご説明ありがとうございました。ただいまの説明についてご意見・ご質問等ございますか。</p> <p>初めての委員の方は、概要が分かりにくかったかもしれませんが、介護保険事業計画は、3年に1回見直しをしております、今ご報告いただきましたのは2021年度から2023年度の第8期計画についての内容をダイジェストでご説明いただいたという形です。それを踏まえて、これから第9期計画の方向性について考えるという流れになっておりますが、まずこの3年間について一体どういう施策を目指して進めてきたかという概要のご説明でした。これについて、何か分かりにくいことがあれば挙手をお願いします。</p>
田中委員	<p>よろしいですか。</p>
杉原会長	<p>はい、田中委員お願いします。</p>
田中委員	<p>最近、ニュースあるいは本にも書いてありますが、健康寿命と平均年齢の関係について、平均年齢は伸びても健康寿命が短くなってしまふことは、良くないわけですね。</p> <p>平均年齢だけ伸びても介護者が増えるだけの話になりますので、まずは健康寿命を確保・維持するということを考えていかないといけないと思います。第9期計画は、そのことも視野に入れて、どうあるべきか考える必要があると思います。そして2040年に向けて37の中学校区で地域づくりを進めていますよね。その地域づくりも37地域と、それから高齢者あんしん相談センターも21か所しかないということもあるので、その辺りをどうしていくかということ少し展望として織り込んでいかないと、2040年の</p>

杉原会長	<p>地域づくりと整合性が取れなくなってしまうと思います。その辺りを認識しながら、この第9期計画を検討していく必要があると思います。</p> <p>ありがとうございます。第9期計画に向けての重要なポイントです。健康寿命をどう伸ばすかということと、地域の圏域についての考え方についてもご意見いただいたかと思います。この辺りは、この後の第9期計画の説明にも関わってくるころだと思いますので、それも踏まえて追加でご発言をいただけたらありがたいです。</p> <p>この第8期計画について、例えば何か基本的な言葉が分からないとか、そういうレベルの質問でも構いません。</p>
辻主査	<p>ぜひお願いします。</p>
杉原会長	<p>はい、香川委員、お願いいたします。</p>
香川委員	<p>香川でございます。今まで、今期、9期に当たって私が思うことは、いかに実効性、効果を上げるかという観点をぜひ強調して計画を立てていくのが良いのではないかとことです。第8期まで24年取り組んできたわけですね。その各期計画に対してどのくらい達成できたかということと、できなかった部分もあると思いますので、その理由をデータに基づいて考えて、実効性が上がるようにしていければ良いのではないかとということが市民としての要望でございます。よろしくお願いいたします。</p>
杉原会長	<p>ご指摘ありがとうございます。先ほどの第8期計画の説明は、概要の説明でしたが、第8期についての具体的に立てた目標の達成状況は、何回目の計画策定部会でご説明いただけるのでしょうか。</p>
辻主査	<p>計画策定部会の1回分を第8期計画の総括そのものに充てる予定は入れておりませんが、個別の計画策定部会の中で必要に応じて話をさせていただこうと思っています。</p> <p>今の時点で立てている計画の指標は、3年に1回の調査で測るものもありまして、全ての指標を測っているわけではないですが、中間的な達成状況については、この部会の一つ上位になる分科会で昨年度ご報告をいたしました。そのときの資料は、既に公開されておりますので、別途共有をさせていただきます。簡単にまとめたものは、本日説明する次の資料にも入れておりますので、そここでご説明いたします。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。計画を考える上で既に立てた目標の到達状況と、それを振り返って何がいけなかったのか考えることは、非常に重要なポイントですので、ぜひ折に触れてご説明いただくと大変ありがたいです。</p> <p>既にいただいたご質問は第9期計画に関わるころが多いと思いますので、特にご質問がないようでしたら第9期計画の説明に移りたいと思います。それ以前に、基本的な</p>

辻主査

用語が分からないといったご質問はよろしいでしょうか。遠慮なくご質問いただければと思いますけれども、また分からないことがありましたら意見書等で事務局にご質問のほど、お願いいたします。

では、既に第9期計画について気持ちが向いておりますので、報告2「第9期計画の方向性について」事務局からご説明お願いいたします。

(2) 第9期計画の方向性について

では引き続き、資料2に基づいてご説明をさせていただきます。

今お二人の委員からどのような形で計画を考えるべきか、前向きで鋭いご指摘をいただきましたので、そういった視点を踏まえ、ご説明したいと思います。まずはこちらをご覧ください。

まず、CHAPTER1「計画の位置付けなど」についてです。高齢者計画・介護保険事業計画の計画期間は3年間で、名前のとおり高齢者計画と介護保険事業計画の二つが合体したものになっています。法律はそれぞれ違いますが、介護保険の事業計画は3年ごとに高齢者計画と一体で作るよう法律上で決まっているため、「高齢者計画・第9期介護保険事業計画」という長い名前の計画になっております。

続いて計画の策定体制についてですが、まず社会福祉審議会というものがございませう。これは、名前のとおり社会の福祉について審議する会で、八王子市社会福祉審議会条例に基づいて、市長の諮問機関として設置されているものです。その中に、高齢者福祉について話し合う、高齢者福祉専門分科会というグループがありまして、その分科会の中で計画について話し合う高齢者計画・介護保険事業計画策定部会を設置しています。

また、八王子市は、これまで様々なアンケート調査等を行っておりまして、65歳以上で、要支援1・2の方、もしくは認定のない方を対象にした、ランダム抽出のアンケートや、75歳以上の方向けのアンケート、在宅で要介護認定を受けている方へのアンケート等を行って、データの分析をこれから進めていくところです。

そして、八王子市は、介護、医療の公的なデータベースも持っておりますので、これらを組み合わせた分析を行うほか、21の日常生活圏域ごとにどういう特徴を持った方が多いかなど、そういった地域分析を行う際に必要なデータも市に集まっています。

データだけでは見えないことが多くありますので、市内21か所にある、市民の相談を受け付けたり、必要なサービスにつなげたりする高齢者あんしん相談センターのセンター長とのヒアリングや、介護保険制度に関係する事業を行っている所管とヒアリングをしているところです。

また、これまで行った様々なアンケートについてです。例えば、65歳以上の方向けに実施したアンケートでは、口の機能に問題を抱えている人が多いのか、体力が落ちている人が多いのか等、そういった将来の介護ニーズに関わるような情報の分析をするほか、要介護の方向けのアンケートでは、住み慣れた場所で、要介護になっても暮らし続けることが簡単にできないという現状もあるので、どのようなサービスがあれば、それ

が可能になるのかを探るために、在宅生活を続ける上での不安は何かなど、そういったことを伺っております。

ほかにも、認知症本人調査という新しい調査や、年齢に関わらない市民調査も実施したいと考えています。また、調査のデータを単純に集計するだけでなく、研究機関と連携をしておりますので、将来リスクがあるのはどういった特徴のある人なのか等、統計的な分析も行いながら、計画に役立てていこうと思っております。

このようにデータ分析、ヒアリングを踏まえて素案を作りながら、皆様の意見をいただき、令和5年12月頃にパブリックコメントを実施し、素案を多くの市民の方に見ていただくという流れを想定しています。

参考に、これまでの計画に、第7期、第8期があります。第1期から全て載せることは難しいですが、一つ前の第8期計画は、先ほど概要をご説明したものです。

こちらについて、先ほど地域福祉計画というキーワードも出てきたかと思いますが、この高齢者計画・介護保険事業計画は単独で動くわけではなく、ほかの様々な計画と連動しながら事業を進めてまいります。特に重要な計画が、2040年までの八王子をデザインする市の一番の上位計画「八王子未来デザイン2040（にーまるよんまる）」です。こちらが令和5年度から本格スタートし、その中に八王子市の様々な計画が位置付けられています。

先ほどお話しした地域福祉計画は、地域の支え合い、例えば、成年後見人の利用促進など、様々な内容が含まれた、分野横断的なものになっています。こちらと連動しながら、介護保険の計画や、障害者計画が作成されています。

計画期間については、八王子市の新しい未来図を描く未来デザインが来年度からスタートし、その下にある高齢者や地域福祉に関する計画が、来年度一斉に改定されることとなります。そのため、様々な計画が2040年のことや、地域共生社会づくりを意識して、連動しながら進めていく必要があると思っております。

さて、次に介護保険制度をめぐる動向と第8期計画の課題ということで、チャプター2に入ります。

まず、国の審議状況についてですが、諮問機関として、社会保障審議会、介護保険部会があり、ここでも様々な専門家、関係者が集まって、介護保険制度の在り方の議論がされてきました。その意見のまとめが昨年末に出ており、その内容について簡単にお伝えします。団塊の世代が75歳以上になる2025年が迫っており、介護サービスを受ける人の割合が急増すると予想されます。75歳辺りから大体5歳刻みで、介護サービスを使う人の割合が倍ずつ増えていくようなイメージですが、75歳以上の人が一気に増える中で、このままだと困っている人に、介護サービスが届かないかもしれないといった強い危機感が議論から感じられます。

大きな議論の結論の方向性としては、「地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進」と、「介護現場の生産性の向上や、制度の持続可能性確保」の二つです。そもそも地域包括ケアシステムという言葉自体が分かりにくいのですが、困っている人をみんな支えて、その人らしい暮らしが続くようにする社会の状態のことです。

また、介護人材が足りないといっても、足りないだけ増やすわけにはいかないので、今まで10人でやっていた仕事を9人でできるようにならないかなど、そういったことも、国で検討がされています。

八王子市でも、先ほどお話しした高齢者福祉専門分科会で様々な議論を進めており、自治体ごとのデータ比較、例えば八王子市では、こういう状態の人が少なく、こういう状態の人が、ほかの市より多いといった比較や、インセンティブ交付金というものについての報告もしています。

インセンティブ交付金とは、努力して工夫している自治体に対して、多めに補助金を交付するという国の制度です。努力を評価する項目がいろいろ決まっており、どの点で国に高く評価されたか、どこで減点されたか等を、分科会で報告し、そのことについて、委員の皆様からご意見をいただいています。

なお、インセンティブ交付金の評価につきましては、八王子市は非常に高く、東京都内で2位、全国で13位という評価をいただいています。まだ改善の余地はあると思いますが、数字で結果を出していきたいと思っています。

高い評価をいただいています。当然改善点に関するご意見も多くいただいております。資料11ページの水色の箇所、(1)～(3)に記載しております。

(1)については、例えば第8期計画の中で、リエイブルメント、つまり状態の悪くなった人が、元の暮らしを取り戻すためのサービスもありますが、上手に使えているところと使えていないところがあるといったこと、(2)については、介護人材不足と将来のお金の問題に関して、かなり危機的な状態であること、そして(3)については、データの中で、他市と八王子市の違いがあることは把握できたが、その理由はなぜなのか、その違いは良いことなのか、悪いことなのか、どこを変えれば、より市民にとって良いことになるのか、その辺りの分析をして、具体的に結論を出してほしいといったことについて、ご指摘をいただいています。

12ページは、第8期計画で立てた指標の達成状況です。コロナ禍で予定していた事業を中止したということも当然ありますが、それ以外の理由も含め、(1)から(5)の指標は、想定より達成できていない状況となっています。

詳細は、別途、ご説明の機会があればと思いますが、先ほどご説明した国の分科会でも話にある地域共生社会づくりや、持続可能性確保に関わる点においても、まだ課題があるという状況です。このことについてまとめたものが、13ページです。

まさに、香川委員から、実効性という言葉いただきましたが、第8期計画では特に二つの課題について、より実効性のある取組が必要だと認識しています。

一つ目が、介護予防・重度化防止についてです。様々なメニューを用意しておりますが、用意するだけでなく、サービスを使いやすいものにする必要がありますし、ケアマネジャー、高齢者あんしん相談センター、医療関係者など、関係者全員が同じ意識を持つことに向けた努力をしていく必要があると思っています。また、3か月という短い期間で実施する、元気になるためのサービスがありますが、サービス終了後に再び家に閉じこもってしまうと意味がないので、その後も楽しく地域で、みんなと一緒にやりがい

を持って暮らせるような、そういう地域づくりとセットにする必要があるなど、そういったところにも課題を感じています。

二つ目が、制度の持続可能性確保についてです。第9期計画は、2025年を意識した計画のため、制度の持続可能性に力を入れていくべきだと考えておりました。例えば、介護人材の需給ギャップについては、自治体の財政以上に、みんなにとって、すぐに困り事になると思います。

そうすると、需要と供給両面を考えていく必要があるということが、第8期計画を実行してからの気づきです。ただ供給、つまり介護人材を増やすということだけでなく、介護を受けなくて良い状態になる人を増やしていくこと、そして困り事全てを介護サービスで支えようとするとう然破綻してしまいますので、地域の支え合いや、企業のサービスを使うなど、みんなで困っている人を支え合う需要側のアプローチが重要だと考えています。供給側のアプローチとしては、人材確保のための様々な取組に加えて、事業所の生産性向上が挙げられます。最近、国は新しいICT化に向けた取組を進めているところですが、事業所にとって使いやすい仕組みにしていくための、間に立った努力を基礎自治体として進めたいと考えています。

そして資料14ページ、計画づくりの考え方は、三つあります。一つ目が「ビジョン」、二つ目が「ロジック」、そして三つ目が「エビデンス」です。この三つを大事にしなが、皆様と一緒に議論していきたいと思っています。「ビジョン」とは、どんな未来を作りたいかということです。事業の一覧表だけ作成しても、なかなか見ている人には分かりませんよね。「このままだとうなりますが、このような未来だったら、みんなが幸せですよ」というように、みんなが目指したいと思えるような未来、これを言葉にしていくことが重要だと思っています。何のためにこの仕事をするのか、何のためにこの役割があるのか、それをみんなが理解できるような状況を作ることがビジョンだと考えています。

「ロジック」は、簡単に言うと、目指す未来、ビジョンをどのようにして実現するかについて考えることです。あとは順調に実施できているかどうかを測るためにあります。

例えば、速く走りますということが施策だったとしても、速く走れたかどうかを、どのようにして測るのか決まっている必要がありますよね。そうしたら、100メートルを何秒以内に走るなど、順調に実施できているかを客観的に説明できる数字を示す必要があります。

どのようにしてゴールに向かっているか、順調に実施できているのか、それを表すものがロジックモデルです。こちらは、言葉だけでは説明しづらいので、次のスライドで詳しくご説明します。

最後は「エビデンス」です。よくあるのが、計画を作成したら、あとは予定通りに実施するだけというように、計画が目的となってしまいうパターンです。そうではなく、狙ったとおりに結果が出ているかということについて、データを以て確認をするということを徹底的に実施する必要があると考えています。

例えば、イベントを開催するという事業があったとしても、「イベントを実施しました、人が大勢来ました、大成功」ではなくて、イベントを開催した結果、目指した高齢者の社会参加率向上につながったか、そこまで考えることが評価であると思いますので、この辺りをデータ分析する体制を整えていきます。

あとは、第8期計画を作成したときに起きたコロナです。今まで我々が想定していたことと全く違う社会になりました。高齢者は外に出て、人と触れ合って、誰かと一緒にご飯を食べれば、心も元気になるほか、栄養も取れる、体も元気になるという考えは今でも正しいのですが、それができなくなってしまいましたよね。このようなことがあったときに、計画に書いてしまったからこのとおりに実施するのではなく、アップデートできるようなデータと理屈、市民の声、そういったものを併せながら、柔軟に対応できるようにしていきたいと思っています。

先ほどお話ししたロジックモデルというものは、初めて聞くとよく分からないと思いますので、分かりやすいと思う説明を作成しました。

資料16ページに例がありますが、例えば、カブのみそ汁ですね。カブのみそ汁を作る場合、具と汁が美味しいものであれば、美味しいと考えたとします。まず、どのようにしたら美味しい具になるかということ、具が少な過ぎると物足りないし、私はカブがやわらか過ぎると嫌なので、歯ごたえも必要だとします。多くの具が必要ですが、お金がないため、特売日はチェックしなければなりません。また、歯ごたえのためには、加熱し過ぎないことや、葉っぱを後に入れてしゃきとした食感を出すことも必要です。あとは、味噌の香りが大事なので、良い味噌を買うとします。そして最高のスープを作るためには、出汁をしっかり取る必要があります。煮干しと昆布を合わせようとした場合、前日から煮干しのはらわたを取って、水に煮干しをつけておくことが大事です。このように、実施することを目的から逆算して考えていくことが、最初に行うべきことです。美味しいカブのみそ汁ができたかを確認するためには、家族の顔を見て、家族が笑顔になったら、成功とします。

最高の具の達成状況を測るためには、家族にアンケートを取ってみましょう。具の量が多いかどうかは、カブを3個買ったということ、歯ごたえは圧力計で、1平方センチメートル当たり何グラムの圧力で潰れたかということでそれぞれ測ります。

このような形で、予定どおり達成できているかということ客観的な指標で固めていきます。こうすることで、何を何のために、どれだけやるかが明確になります。

頑張るって走るという事業ではなくて、時速20km以上で、4km継続して走るとなっていると、達成できたか、できていないか、というのは明確ですよ。そのようにして取り組まないと、目的を忘れた仕事になってしまいます。そして市役所は、様々な所管が関わっていて、例えば高齢者の介護予防といっても、市役所だけではなくて、地域の関係者や、高齢者あんしん相談センターが関わっています。一体、私がこれを行っているのは何のためなのかと分からなくなってしまうと、共通の議論が成立しません。「私はこういう未来のために、今、この役割を担っている」ということをみんなが理解できる、それがロジックモデルの一つの意味であると思っています。

ロジックモデルには、もう一つ大事な機能がありまして、例えば、このカブのロジックモデルのとおり、カブも買えたし、具は、家族アンケートで評判が良かったとします。しかし、家族の顔が曇って見えて、美味しいカブの味噌汁の指標である「家族の笑顔」が達成されていないこととなります。なんでかな、と考えてアンケートを取ってみると、汁の評判が悪かったのです。

そこで、味噌の香りを化学測定してみたら、香り成分が弱かったということが判明したとします。そうすれば「味噌の香りを出すためには、良い味噌を買うだけではなく、さらに何か必要なんだな」というように、何が抜けているのか、このような図を書くと分かりやすいですね。調べてみたら、味噌は入れた後に沸騰させると香りが飛ぶらしいです。そうやって、失敗したときに、何が原因だったかを特定しやすくなるのが、ロジックモデルの良いところです。

計画も、そのとおりに実施すれば良い結果が出るものをつくりたいと思っていますが、それが正解だと決めつけず、作成した後も、もしかしたらここが間違っているかもしれないと見直しができる形の計画にしていけることが重要だと思っています。

長くなりましたが、ここが今までの計画より特に強調したいロジックの部分です。

最後に皆様へのお願いです。この計画策定部会は、様々な方々に集まっていますが、専門家の方もいらっしゃいますが、専門的な話だけをする場ではないと思っています。絶対正しいことを言わなければいけないとか、データで立証できること以外は言うてはいけないと思わず、ご自身の思うことや経験を、それぞれ皆様の感覚で言っていたきたいです。当然専門家の方々も、様々な経験、エピソードをお持ちでしょうし、介護者の方、市民委員としていらっしゃった方も、データや専門職の視点だけでは見えてこない考えやご意見をお持ちだと思うので、とにかく思ったことを言っていたくことが重要だと思っています。

あとは「熱く」ですね。ここも強調したいと思っけていまして、あまり空気を読もうとしないことが大事だと思います。みんながこう言っているから違う意見は黙っているということはもったいないので、違うと思ったことも発言して、ぶつけ合うことが大事です。よろしくをお願いします。

最後に「未来志向」です。この計画は、今の高齢者だけではなく、未来の市民の幸せも一緒に守るように考えていきたいと思っています。今困っている人、将来困るかもしれない人、そして、それを支えるかもしれない人、様々な人の思いを想像しながら議論ができれば、きっとみんなが幸せになれる八王子を描けると思っています。

楽しく、熱く、未来志向で、皆様と語り合えるように、場をつくっていきますので、ぜひ今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

杉原会長

はい、ご説明ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございますか。

ご質問を考える時間も必要かと思っておりますので、つなぎで、私からいくつか質問いたします。

	<p>まず、資料の12枚目で、第8期計画の指標達成状況の概要をお示しくださったのですが、もう少し詳しい資料をいただけないでしょうか。また、3年計画のうちの2年が終わったところですが、第8期計画のときにも、それぞれの項目について、具体的な目標を立てておりましたので、達成状況の資料を次回の計画策定部会までに是非各委員にお配りいただけますでしょうか。</p>
辻主査	<p>はい、かしこまりました。</p>
杉原会長	<p>そうすると、それを基に、第9期計画を考えやすいと思います。</p>
辻主査	<p>そうですね。ご用意して、皆様にご提供いたします。あと第8期計画の冊子をお持ちでしたら、126ページにロジックモデルを掲載しています。どういった目的を達成するために、どのようなことをやっていくかということ、こういった形で実施することと指標にして入れておりますので、こちらも参考にご覧いただければと思います。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。次回、調査結果のご報告があると思いますが、そのときも第8期計画の目標に照らしてどうだったかということが分かるように載せていただけると、非常にありがたいです。お手数をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。</p> <p>それから、上位計画の八王子未来デザイン2040は、プレスリリースをされていたかと思っておりますので、こちらの資料も、併せて委員の方にお配りいただけると良いと思いたしました。やはり2040年問題を見据えて考えていけないといけないので、こちらもお手数ですが、お願いいたします。</p> <p>委員の皆様から何かご意見、ご質問、それからこういう資料を出してほしいというような要望でも構いませんので、お願いいたします。</p>
大竹委員	<p>はい、よろしいでしょうか。</p>
杉原会長	<p>はい、お願いいたします。</p>
大竹委員	<p>分かりやすいスライド、ありがとうございます。薬剤師なので、現場レベルのお話になりますが、最近、保険割合の負担が変わり、お薬代が高くて困るという話が出てきています。そこでお薬代の増減が八王子市では、どういう経緯があるのか、もし数字が分かれば、資料のご提供をお願いいたします。</p>
辻主査	<p>ありがとうございます。医療保険の話ですよ。</p>
大竹委員	<p>そうですね。</p>

辻主査	承知いたしました。ありがとうございます。
吉本課長	大竹委員、ありがとうございます。そちら、医療費の話になるので、データは存在すると思いますが、その数字があるかどうか、担当所管に確認いたします。申し訳ございませんが、よろしくお願いします。
杉原会長	ありがとうございます。言葉が分からないという質問でも良いですし、こういう資料を出してほしいというようなご要望でも構いませんので、お願いいたします。
牧野委員	11 ページの報告で、地域で人と関わりながら役割・生きがいを持てるような場が必要とありますが、こういった場合は、八王子市の中でも地域差があるのでしょうか。また、こういったものが用意されているのでしょうか。
辻主査	<p>今までは高齢者の人と関わる場という、サロンなどが、割とイメージされていたかと思うのですが、町会・自治会やシニアクラブで、楽しく参加するだけではなくて、周りの人を支えるために一生懸命取り組んでいる方のように、役割、生きがいを持てるような場をイメージしています。</p> <p>こういった場も様々なタイプがありまして、例えばお仕事やボランティア活動に興味のある高齢の方も増えています。その方達のやりたいことと上手にコーディネートすることも増やしていく必要があります。</p> <p>純粋に地域差という意味で言いますと、八王子市は、21 の大きな圏域で高齢者を分けて考えていますが、サロンの数であれば、地域によっては、多いところ、少ないところ、そして地域が広過ぎて、通うことが大変なエリアもありますね。市内一律のやり方だけではなくて、人・地域によって、考えていく必要がある難問だと思います。</p> <p>八王子市が作成している、今ある資源の一覧として、100 年サポートブックといった冊子もございまして、こちらも参考に情報提供いたします。</p>
村山副会長	説明ありがとうございます。先ほどの説明の中で、想定外の社会変化があったときには、柔軟に、変則的に対応していくことが大事、まさにそうだと思います。私もほかの自治体の委員会などに出席すると、やはりコロナでできなかったため、達成できませんでしたということが軒並み出てきます。しかし、このような事態にもどのように方向転換していくかということが、とても大事だと思うのですが、前回の第8期計画の中で、想定外のことがあって計画変更したという事例がありましたらお教えてください。
辻主査	計画の方向性を大きく変えたということは特にはないのですが、例えば、介護予防については、人が集まって何かをすることが難しくなっている中で、一人でもできる介護予防として、スマートフォンを使ったアプリ「てくポ」を始めたことなど、事業レベルでの方向転換はしております。

吉本課長	<p>補足です。例えば、これまで事業所向けの研修を、基本集合型の対面で行っていましたが、やはりコロナ対策ということで、ウェブ配信に切り替えて、担保できたということもございます。コロナをきっかけに、手法を変えて、それでもしっかり成果を出せるということも、我々にとって良いきっかけになったと考えております。</p>
杉原会長	<p>時間が大分少なくなっていますが、ロジックモデルをご説明の中で強調されていましたが、それに当たってはゴールの策定というのが非常に重要で、まずはそこからがスタートだと思うのですね。</p> <p>資料の15枚目で、大事にしたい三つの視点の一つ目に、ビジョンに基づくゴール共有ということが書かれておりますので、ゴールをまずみんなで考えつつ、共有することになると思います。今回は、計画策定部会7回のうちの第1回という、非常に重要な会ですので、時間を大事にする上でも、第9期計画では、こういうゴールが重要なのではないかということからも、ご意見をいただければと思います。</p> <p>今後もこの議論はしばらく続くとは思いますが、それぞれの立場から、ぜひこういうことを真剣に考えてほしいという要望についても、ぜひご意見をお願いします。</p>
大竹委員	<p>てくポについて興味があるのですが、先ほど、健康寿命の話もありました。その中で、八王子市の65歳以上の方のスマホ利用率は、八王子市で大体把握されているのでしょうか。そういったことが分かると、ここがゴールみたいなものが分かるきっかけになると思いまして、質問させていただきました。</p>
辻主査	<p>65歳以上だと、すぐに出てくるものが、八王子版ではないですが、総務省の調査が毎年実施されておまして、毎年数値が上がっています。古いデータで答えると、大分違いますが、今、私が記憶しているものだと、八王子市の75歳以上の数字がありません。2020年度は45%で、2021年度は、54%でした。その1年後の調査を今集計中なので、おそらく60%を超えているのではないかと思います。</p>
大竹委員	<p>それは持っている人という話ですか、それとも使える人の話ですか。</p>
辻主査	<p>持っている人の話です。私もてくポの事業を担当している中で、アプリのインストールを一緒に行っていますが、あまり使いこなせる人はいないという肌感覚ですね。</p> <p>様々な事業を実施するときに、高齢者の方がスムーズにICTに触れられるかどうかというところで大きく変わってくるところがございまして、これはデジタルデバイド対策という観点からも、ほかの所管と連携しながら検討していくところです。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。おそらく第8期計画のときに、ITの積極的な活用は、あまり考えていなかった点ですよね。先ほどもコロナが災い転じて、新たな形で事業を展開できたということもありましたので、第9期計画において、IT活用はさらに積極的な</p>

香川委員	<p>位置付けになってくるかもしれないですね。ありがとうございました。</p> <p>あとは第9期に向けて、こういうゴールが必要というものがありましたら、それぞれ委員の皆様の立場から是非ご発言をいただければと思います。</p> <p>126 ページ以降の、成果指標、達成状況というご説明がありましたけれども、よく書かれていると思います。ありがとうございます。</p> <p>ただ、少し疑問なことは、誰が目標を進めるのかということです。主体者、主幹課、サブの担当課など、どのグループが進めるのかということが、多分裏にはあると思うのですが、表に見えていません。</p> <p>例えば、地域ネットワークのところでしたら、高齢者あんしん相談センターという組織体の役割を一体どうしているのか。各課の目標を進めるに当たって、どちらがリーダーシップを取って、どう進めるのかということが少し気になるので、第9期計画は誰が、どういう高齢者に対して、何をするのかということが、計画の段階で、もう少し見えると良いのではないかと思います。よろしくお願いします。</p>
吉本課長	<p>香川委員、ご指摘ありがとうございます。実は、第7期までの計画では、それぞれの事業に対して、所管の位置付けを明確にしていました。しかし、所管の業務が変わったり、組織改正があったりすると、結局、ここに書いてあった所管はどこになったのかなど、分かりづらくなってしまったという経緯がありました。つまり、所管を記載してしまうと、その所管が、組織改正で複数の所管にまたがってしまった場合、どこの所管が責任を持ってやるのかという役割分担ができないままのため、第8期計画のときには、あえて担当所管は載せていません。実際に、先ほどお示しさせていただいた事業の評価に関しては、所管で自己評価をするようお願いしているため、指標評価の部分は、先日の分科会の資料のように、どこの課が実施したと分かるようになっています。</p> <p>ただ、ご意見いただいたように、事業所管を載せるべきなのかどうか、その辺りは今後議論をさせていただければよろしいと思います。</p>
香川委員	<p>介護・福祉の対応は行政、八王子市だけで全部推進するわけではないと思います。高齢者自身が、自主的に取り組まないと改善しない要素もあると思います。そういった活動については、高齢者本人、市民が主役ですと計画の中で役割分担を明確に書き切ることが重要です。一例ですが、健康増進活動などはシニアクラブに中心で実施してもらうということを明確にするなどした方が良いのではないかと思います。もちろん市役所が中心になるところは市役所の主管課を明示するかは別にしても、推進元を決めておかれたほうが良いかと思います。</p> <p>つまり、市民から見ると、その辺りの役割分担が分からないのです。福祉といっても広く、大きく、市役所外の組織体も含めて、どこが何を担当しているのかということがなかなか分からない。それを改善したほうが計画の実効性が向上するというところでございます。</p>

吉本課長	<p>ありがとうございます。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。はい、田中委員、お願いします。</p>
田中委員	<p>はちまるサポートという組織を、社協で担っていただいておりますが、今度、館ができて、12か所になるということですよ。はちまるサポートは、様々な相談、つまり総合相談をする場ですよ。例えば、市の福祉関係の部署あるいは高齢者あんしん相談センターにつながるのかといったように、はちまるサポートは、一体何をどのように実施しているのか、あまり認識されていないと思います。そういった制度があることを、高齢者に知ってもらうということも必要だと思います。</p> <p>私に関係しているものを見ると、あまり認知していない人がいます。福祉政策の中でも様々な場があるので、そういう場を認知されるようにしていかないと、例えば、介護保険サービスが必要な高齢者が、サービスを受けられないといった話にもなってきます。本当は受けるべき、あるいは受けたほうが良いのに、受けられないというケースが、かなりあるように見受けられます。その辺りをまず徹底して、介護予防の方にもつなげていく必要があると思います。</p> <p>また、介護保険料は、これからますます高くなり、上限を引き上げられる形になると思います。2000年に介護保険制度ができてから、何回も改定されていますが、改定する度に、制度の趣旨がだんだん失われてきているというような話も耳にします。また、介護保険の改定がされた結果や、それを基にこういう活動をした方が良い、すべきですよといったことを、町会・自治会など、皆さんにPR、啓発をしていく必要があると思います。</p> <p>私は今回の計画策定部会のような場で、様々な議論が出たことや、資料で見たことを、私なりに毎月町会・自治会連合会の定例会で報告しています。しかし、報告を皆さんがどこまで理解してくれているかということには分かりません。昨日も定例会が実施して、何かあったら生活支援コーディネーターや、21圏域にある高齢者あんしん相談センターに連絡を取れば、必要な対応をしてくれるという話もしました。そういうことを行政も、少し緻密に行った方が良いと思いますが、いかがでしょうか。</p>
中山課長	<p>介護保険課です。今、お話いただいたように、必要な人に必要なケアを将来にわたって提供し続けることが基本だと思います。IT化等により手段が変わっても、常に介護保険法の第1条に立ち戻って、必要なサービスをきちんと届けて、その人が自立しながら、今持つ能力を生かしながら、生きがいを持って生き続けられるようにするためにはどうしたら良いのかといったところが、まず、基本になると思います。今おっしゃったように、必要な人がサービスを受けられるためには、その情報がきちんと届くためにはどうしたらいいのか、行政、市民、事業所は、それぞれが主体として、どのようなことができるのかといったことを具体的にイメージしながら、これから議論を互いに進めていけると、利用者が生涯生きがいを持って暮らしていける介護保険制度の最も根幹の趣</p>

	<p>旨にかなった形で政策を進めていけるのではないかと思います。</p>
<p>田中委員</p> <p>柏田課長</p>	<p>それから、事業や団体でも様々な呼び方がありますよね。例えば、総合事業ですが、一体何なのか、恐らく皆さん答えられないと思います。そのため、総合事業とはどういったものなのかということ、地域会議、地域推進会議の関係者は知っていると思いますが、何らかの形で皆さんにお知らせした方が良いと思います。</p> <p>福祉政策課長です。今のお話ですと、意外と施策や、事業は充実していても、それが皆様に伝わっていないということが、第9期計画に向けて、一つの大きな課題になると思うのですが、それは様々な意識調査や、アンケートからも結果として出ております。その施策を必要としている人が、その情報を知らないなど、様々なものが充実しているがゆえに、複雑になって分かりづらくなってしまっている事態も起こっているため、行政側も含めて、事業を立ち上げるだけではなくて、それをどのようにして必要な人に認知させるかということも考えていく必要があると思っております。</p> <p>それとはちまるサポートのお話、ありがとうございます。はちまるサポートは、どこに相談して良いか分からない人が行くところです。どこに相談したら良いか分からないという課題を解決する、総合相談窓口として設置していますが、逆に何を相談したら良いか分からないという事態も起こってしまうのではないかと感じています。</p> <p>また、はちまるサポートを所管する福祉政策課としては、社会福祉協議会と連携をして、認知度をより上げていくことが必要だと考えています。何か相談事があったら、まず、はちまるサポートに相談していただければ、はちまるサポートが必要なところにつながることができますので、そういった認知度向上も含めて、積極的に活動していくことを地域福祉計画の中で考えていきます。高齢者計画・介護保険事業計画の中でも、考えていくことができれば良いと思います。ご意見どうもありがとうございます。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>島崎委員、お願いいたします。</p>
<p>島崎委員</p>	<p>今のお話と関連するかもしれませんが、私も田中委員のおっしゃることがよく分かります。民生委員を務めていますと、身近に高齢の方と接することが多いです。その方たちに説明する際に、何か困ったことがあるけれど、どこに相談したら良いのか分からないというお話をいただきます。はちまるサポートは、「八王子丸ごと」ですから、何でも相談して良いわけですね。</p> <p>例えば、体の調子が悪いときは、誰でも医者と考えることと同じように、様々な悩みがあったら、まずはちまるサポートに行ってみようと思えることで良いと思います。</p> <p>はちまるサポートが近くにない場合は、民生委員に少し相談してみる。そうすると民生委員からはちまるサポートにつながるかもしれません。または、民生委員を通さなくても、各地域に21か所ある高齢者あんしん相談センターというところが、様々な相談に乗ってくれますので、そこに相談してみることも一つの手段だと思います。そうするこ</p>

	<p>とで、「こちらに行ってください。」「市役所にはこういう課がありますから、ここに行ってみてください。」と言われるかもしれません。</p>
田中委員	<p>適切な機関につなぐほか、話ができる人が、周りに多くいると良いですね。そういう人がいないと、つなぐことさえできなくなってしまいますよね。</p>
島崎委員	<p>そうですね。ですから、伝えることは必要だと思います。 あとは、できるだけ分かりやすい言葉の方が良いのではないかと考えています。</p>
田中委員	<p>私は、はちまるサポートが皆さんにとってよろず相談承り所だという話をしています。そうしないと、はちまるサポートは何をすところなのか、認識していない人がいるかもしれません。</p>
島崎委員	<p>そうですね。とにかく何かあれば、はちまるサポートに行ってみようという程度の感覚で良いと思います。それか、高齢者あんしん相談センターに行ってみる、電話してみることでも良いと思います。</p>
田中委員	<p>そうすることが、介護予防につながると思います。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。話し足りなくなってきましたが、少し時間が押しています。話し足りないところについては、お手元に意見書がありますので、第9期計画に向けて、現状を踏まえて、「これが大きな課題」、「第9期計画でぜひこの課題を考えたい」というご意見、ご要望をお寄せいただければと思います。 それでは、最後に事務局より連絡事項をお願いします。</p>
辻主査	<p>参考資料3 「八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会 年間スケジュール」をご覧ください。次回以降の現時点での予定になります。 詳細につきましては、開催日の約1か月前に開催通知を送付しますので、日時・会場等ご確認の上、ご出席をお願いします。 本日の会議内容についてご意見等ございましたら、配付させていただいた意見書を、1週間以内にメール、郵送、FAXまたは直接事務局までお送りください。 また、本会議の議事録については、後日各委員に内容確認のため郵送させていただきますので、ご確認をお願いいたします。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。 それでは、以上で本日の会議は終了させていただきます。お疲れ様でした。</p>